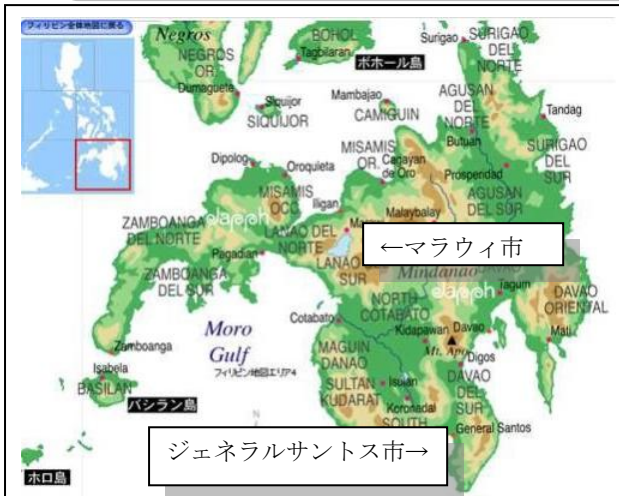


いのちと健康を守る活動

PIHSもマラウイの避難民支援に参加 医薬品、保存食提供、避難所生活での健康管理指導を予定



<戒厳令の延長決定>5月23日に発出されたミンダナオ島対象の戒厳令が、期限切れとなる7月22日に議会の承認を受けて、12月31日まで延長されました。
ISの勢力を完全にそぐための措置とされています。

避難民の間に広がる飢餓・治安悪化

PIHSの医療救援計画変更

コタバト市のNGOと協力して、7月8日には、応急手当用医薬品の配布や避難生活での栄養衛生指導等に当たりたいという連絡を受けて、とりあえず15,000ペリ(約34,000円)を託しましたが、19日付のメールによれば、「長引く戦闘で避難民が増加し、食糧が行き渡らないなどの事情で治安が悪化している。医療チームの安全のため、救援計画を見直した。7月22日から改めて、マラウイ市の北にあるイリガン市での活動に入る予定」ということでした。

本90号には、救援活動の写真報告をお届けできませんが、マラウイ避難民支援へのご協力、引き続きよろしくお願ひいたします。

(ホームページを通じての協力要請には、会員5名からご寄付をいただきました。ありがとうございます。)

ジェネラルサントス市バラガイ・ファティマ(旧名称ウハウ)で進む助産所建設

乾季の4-5月の間に、かなり進む予定だった助産所建設は、保健省の正式な認可が下りた4月下旬に本格的工事を開始したという事情から、屋根工事にかかる前に雨期に入ってしまった。作業員の安全も考えて、晴れ間を待っての工事で、前号で、6月末終了予定と書きましたが、完成は8月中旬になりそうです。

なお、マラウイ避難民支援が加わり、さらに忙しくなったナプサさんに変わり、工事関係は当面、NGO経験が豊かなナプサさんの夫ハッサンさんが監督することになりました。

また、工事完了を待たずに、8月1日付で、保健省や健康保険事務所との折衝経験が豊かな助産師ハリマさんを雇用したいという連絡も入りました。



← 4月30日の鉄筋搬入

事業予算策定時より、資材が1割近く値上がりしていることが分かりました。135万の建築費は5-10%増えて、142-148万円になりそうです。

6月13日の状況 →
頻繁にスクールが来る本格的雨期に入る前に、何とか、支柱のコンクリート作業は終了しました。



会員・市民のご協力に感謝！ 今後とも引き続きよろしくお願ひいたします。

会員、市民の皆様には、多大なご協力をありがとうございました。

建設費及び7月の開所後6か月の助産所運営費補助を含めた事業予算216万円のうち、約100万円は今井記念海外協力基金の助成をいただけることになりましたが、自己資金分の準備がまだ十分ではありません。

現地パートナーPIHSは、マラウイ避難民支援活動にも加わり、資金、労力面で厳しい状況が続いています。引き続き資金面での後方支援を行なっていきたいと思います。医療自立支援会費も充当させていただきますが、今後とも寄付によるご協力をよろしくお願ひいたします。